

- 問1 平安時代末期に白河上皇によって始められた「院政」という政治体制の説明として、当時の政治の仕組みの変化をふまえた記述として最も適切なものはどれですか。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
1. 地方で成長した武士が、京都の朝廷から政治権力を完全に奪い、鎌倉に独自の政府を組織した。
 2. 天皇の母方の親戚である外戚が、天皇に代わって全ての政務を決定する摂関政治の形式をより強化した。
 3. 坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命され、東北地方を平定することで天皇による全国支配を完成させた。
 4. 藤原氏が摂政や関白として権力を独占する仕組みを抑えるため、天皇の位を退いた上皇が政治の主導権を握った。
- 問2 平安時代の建築や彫刻は、当時の信仰と深く結びついていました。当時の代表的な建造物の特徴を説明した資料において、内部に阿弥陀如来像を安置し、壁画などで極楽浄土の様子を再現しようとした藤原氏ゆかりの建物は何ですか。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
1. 法隆寺五重塔
 2. 鹿苑寺金閣
 3. 平等院鳳凰堂
 4. 東大寺大仏殿
- 問3 桓武天皇の時代から、のちの鎌倉幕府や江戸幕府の時代に至るまでの政治の拠点の変遷を考えたとき、平安京への遷都に関連する記述として正しいものを選びなさい。 (2026年 岡山県公立入試 類似)
1. 桓武天皇は、それまでの都であった長岡京から、山や川などの自然の防御に優れ、水運の便も良い平安京へ都を移した。
 2. 桓武天皇は、平氏による専制政治を打破するために、源頼朝と協力して平安京の造営を進めた。
 3. 桓武天皇は、海外貿易の利益を独占するために、平安京の中に管領と呼ばれる役職を置いて商業を統制した。
 4. 桓武天皇は、六波羅探題を設置して京都の監視を強め、西国の武士を統制するために平安京を利用した。
- 問4 平清盛が推進した日宋貿易に関する記述として、その背景や具体的な取り組みについて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2024年 石川県公立入試 類似)
1. 平氏は瀬戸内海の航路を掌握し、現在の神戸市にある大輪田泊を改修することで、宋の大型船が直接入港できる体制を整えた。
 2. 平氏は足利義満が始めた勘合貿易を参考に、倭寇による密貿易を防ぐための証明書を発行して、宋との公的な交易を独占した。
 3. 平氏は唐の制度を取り入れるために大輪田泊を整備したが、菅原道真の建議によって貿易は一時中断されることとなった。
 4. 平氏は新羅や高句麗といった朝鮮半島の諸国との交易を重視し、日本海側の港を拠点として武器の輸出を盛んに行った。
- 問5 12世紀後半、平清盛は中国の宋（北宋・南宋）との貿易を積極的に進めるため、現在の神戸市にあたる瀬戸内海の要所に港を修築しました。この時、大型船が直接入港できるように整備された港の名称を次の中から選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 堺
 2. 大輪田泊
 3. 博多
 4. 長崎
- 問6 平安時代末期に政権を握った平清盛は、大陸との交流を重視しました。彼が経済的な基盤を固めるために推進した「日宋貿易」の説明として正しいものはどれか。 (2022年 千葉県公立入試 類似)
1. 倭寇と正規の貿易船を区別するために「勘合」と呼ばれる札を用い、明との間で貿易を行った。
 2. 瀬戸内海の航路や、現在の神戸市にあたる兵庫の港（大輪田泊）を整備し、宋の商船を招き入れた。
 3. 長崎などの港を拠点に、ポルトガル人やスペイン人と火縄銃や銀の取引を行った。
 4. 將軍から海外渡航の許可証である「朱印状」を与えられた商人が、東南アジア諸国と貿易を行った。
- 問7 平安時代初期、最澄が唐から伝えた仏教の宗派と、その修行の拠点となった場所の組み合わせとして正しいものを次の中から選びなさい。 (2024年 愛媛県公立入試 類似)
1. 天台宗 — 比叡山延暦寺
 2. 真言宗 — 比叡山延暦寺
 3. 真言宗 — 高野山金剛峯寺
 4. 天台宗 — 高野山金剛峯寺
- 問8 日本の歴史事項をまとめた年表において、11世紀の後半に「白河上皇が位をゆづった後も政治を行う体制を始めた」という記述がある場合、その政治体制の説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 藤原氏が娘を天皇の后にすることで、外戚として実権を握る政治
 2. 將軍が幕府を開き、守護や地頭を任命して全国の土地を支配する政治
 3. 律令に基づき、中央から派遣された国司が地方の行政を直接担当する政治
 4. 天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の影響を受けずに自らの政治
- 問9 平安時代、藤原氏が天皇の幼少期には「摂政」、成人後には「関白」という職に就き、政治の実権を握った政治体制を何と呼びますか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 摂関政治
 2. 親政
 3. 院政
 4. 執権政治
- 問10 平治の乱で源氏の源義朝らを破り、武士の政権を確立した平清盛が行った経済政策について述べた文として、背景や目的が正しく説明されているものはどれですか。 (2020年 山形県公立入試 類似)
1. ヨーロッパの文化や技術を取り入れるため、ポルトガルやスペインの船を長崎などの港に招いて南蛮貿易を行った。
 2. 明との正式な貿易を行うため、勘合と呼ばれる札を持たせた船を派遣し、倭寇との区別を明確にした。
 3. 宋との貿易を盛んにするため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊という港を改築して経済基盤を固めた。
 4. 東南アジアにまで商圏を広げるため、公印が押された渡航証を商人に与え、朱印船による貿易を保護した。
- 問11 国風文化における貴族の生活様式について、日本の気候や風土に合わせて発達した住居の形式を何と呼びますか。 (2015年 富山県公立入試 類似)
1. 高床住居
 2. 校倉造
 3. 書院造
 4. 寝殿造
- 問12 平安時代中期、息子の頼通とともに摂関政治の全盛期を築き、自身の栄華を「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたることもなしと思へば」という歌に詠んだ人物は誰か。 (2019年 北海道公立入試 類似)
1. 藤原道長
 2. 藤原良房
 3. 藤原頼通
 4. 藤原鎌足
- 問13 平安時代末期の東北地方における政治情勢と奥州藤原氏の関わりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
1. 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。
 2. 平氏が日宋貿易の拠点を東北に移し、平泉を国際的な貿易港として整備することで富を蓄えた。
 3. 足利氏が源氏の血筋を主張して東北地方の武士をまとめ、平泉を拠点に幕府を開いた。
 4. 北条氏が執権として実権を握り、平泉に東北地方を統括するための政庁を設置して支配を広げた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 藤原氏が摂政や関白として権力を独占する仕組みを抑えるため、天皇の位を退いた上皇が政治の主導権を握った。	院政が始まった背景には、長年続いた藤原氏による摂関政治を打破し、天皇を中心とした皇室自らが政治を執り行う目的がありました。上皇は摂政や関白の役職を介さずに、自身の近臣や独自の軍勢力を背景に政治を運営しました。選択肢にある坂上田村麻呂は平安時代初期の人物であり、院政の時代背景とは異なります。
問2	答え 3 平等院鳳凰堂	藤原頼通が宇治に建立した平等院鳳凰堂は、当時の貴族が憧れた極楽浄土を地上に再現しようとした建築の代表例です。堂内には定朝が制作した阿弥陀如来像が安置されており、周囲の池や庭園と合わせて、死後の世界である浄土を視覚的に表現しています。
問3	答え 1 桓武天皇は、それまでの都であった長岡京から、山や川などの自然の防御に優れ、水運の便も良い平安京へ都を移した。	平安京は、北・東・西を山に囲まれ、鴨川や桂川といった河川を利用した水運にも適した地として選ばれました。遷都の直前は長岡京（京都府向日市など）が都でしたが、10年ほどで平安京へ移されています。平氏の打倒や源頼朝、六波羅探題、管領といった要素はいずれも後世の武家政治に関連する用語であり、8世紀末の桓武天皇の時代には存在しません。
問4	答え 1 平氏は瀬戸内海の航路を掌握し、現在の神戸市にある大輪田泊を改修することで、宋の大型船が直接入港できる体制を整えた。	平清盛はそれまで九州の大宰府で行われていた貿易を、自身の拠点に近い近畿圏に引き寄せようと考えました。そのため、瀬戸内海の航路を整備し、難所を工事するとともに、大輪田泊を修築して宋の商船が奥まで入れるようにしました。これにより、輸入した宋銭を国内で流通させるなど、強力な経済力を手に入れました。
問5	答え 2 大輪田泊	平清盛は、武士として初めて太政大臣の地位に就くと同時に、日宋貿易による経済力の強化を図りました。その際、瀬戸内海の航路を整備し、現在の兵庫県神戸市にあたる場所に「大輪田泊（おおわだのとまり）」を修築して、宋の商船が都の近くまで来られるようにしました。博多は九州の貿易拠点、長崎は江戸時代の出島、堺は室町時代以降に栄えた港町です。
問6	答え 2 瀬戸内海の航路や、現在の神戸市にあたる兵庫の港（大輪田泊）を整備し、宋の商船を招き入れた。	平清盛は、武士として初めて太政大臣の位に就くと、それまでの貴族とは異なり、貿易による経済的利益を重視しました。大型船が接岸できるように、現在の兵庫県神戸市にある大輪田泊を修築したことは、地理的にも重要な政策として知られています。他の選択肢にある勘合貿易は室町時代、朱印船貿易は安土桃山時代から江戸時代初期、南蛮貿易は戦国時代以降の出来事です。
問7	答え 1 天台宗 ― 比叡山延暦寺	最澄は平安時代の初めに遣唐使として中国（唐）に渡り、帰国後に天台宗を伝えました。彼は滋賀県と京都府の境に位置する比叡山に延暦寺を建立し、そこを修行の拠点としました。同時期に空海によって開かれた真言宗（高野山金剛峯寺）と混同しやすいため、人物・宗派・寺院の名称を正しく一致させることが重要です。
問8	答え 4 天皇が位を退いて上皇となり、摂政や関白の影響を受けずに自ら行う政治	院政は、藤原氏が摂政や関白として政治を主導した「摂関政治」を打破するために、白河上皇によって確立されました。上皇は天皇の在位中とは異なり、摂関家との血縁関係を重視する仕組みから自由な立場で政治を行うことができました。この体制はその後、鳥羽上皇や後白河上皇へと受け継がれ、約100年間にわたり政治の主導権を握ることとなりました。
問9	答え 1 摂関政治	藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）とし、その子供を次の天皇に立てることで、天皇の母方の親戚（外戚）として強い権力を持ちました。天皇の成長に合わせて摂政や関白という役職を使い分け、一族で政治の中心を担ったことが特徴です。
問10	答え 3 宋との貿易を盛んにするため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊という港を改築して経済基盤を固めた。	平清盛は平氏の経済力を高めるために日宋貿易に注目しました。宋から輸入された宋銭は国内に流通し、後の貨幣経済の発展にも影響を与えました。この貿易を支えるため、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊（現在の神戸市）を貿易港として完成させました。他の選択肢は室町時代の勘合貿易、安土桃山時代の朱印船貿易、南蛮貿易に関する記述です。
問11	答え 4 寝殿造	貴族の住居は、日本の高温多湿な気候に適応するため、風通しの良い「寝殿造」と呼ばれる様式になりました。中心となる「寝殿」から左右に「対の屋」が伸び、それらが廊下で結ばれ、南側には池のある美しい庭園が広がる、自然と調和した広大な造りが特徴です。これは、外見の重厚さよりも住み心地や四季の景観を重んじる、当時の日本独自の感性を反映しています。
問12	答え 1 藤原道長	自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になると、外祖父として政治の実権を握った。提示された歌は、自身の権力が満月（望月）のように欠けるところがないと誇ったものである。息子の頼通も長く権力を維持し、宇治に平等院鳳凰堂を建立したことで知られる。
問13	答え 1 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。	藤原清衡は、前九年の役・後三年の役という大きな戦乱を経て、陸奥国（現在の東北地方の大部分）における支配権を確立しました。平泉は北上川の舟運を利用できる交通の要所であり、この地を拠点に金や名馬を中央の朝廷や平氏に送ることで、政治的な地位と強大な経済力を維持しました。これにより、三代にわたって東北地方に独自の平和な時代をもたらしました。